

2025年3月期 決算概要

2025年5月23日



パンチ工業株式会社

(証券コード: 6165 東証スタンダード)



PUNCH INDUSTRY CO., LTD.

2025年3月期 4Q決算ハイライト

日本市況は停滞しているが中国の景況感回復傾向もあり、増収増益

売上	連結	連結売上高は、前期比106.5%、24億円増の408億円
	日本	前期比93.4%の116億円 医療関連は好調だが、特に電子部品・半導体関連の落ち込みの影響大
	中国	前期比114.4%の233億円 自動車関連の復調もあり増収
	東南アジア	前期比102.6%の19億円 インド、ベトナム、マレーシアは好調だが、シンガポールが不調
	欧米他	前期比108.8%の38億円 欧州他が好調に推移、米州は堅調
利益		営業利益は、前期比135.9%の1,685百万円 経常利益は、前期比113.5%の1,613百万円 親会社株主に帰属する当期純利益は、868百万円 （前期は親会社株主に帰属する当期純損失577百万円）
ネット資金		当期純利益の計上等により、期首から1,083百万円増加



損益計算書サマリー

(単位:百万円)

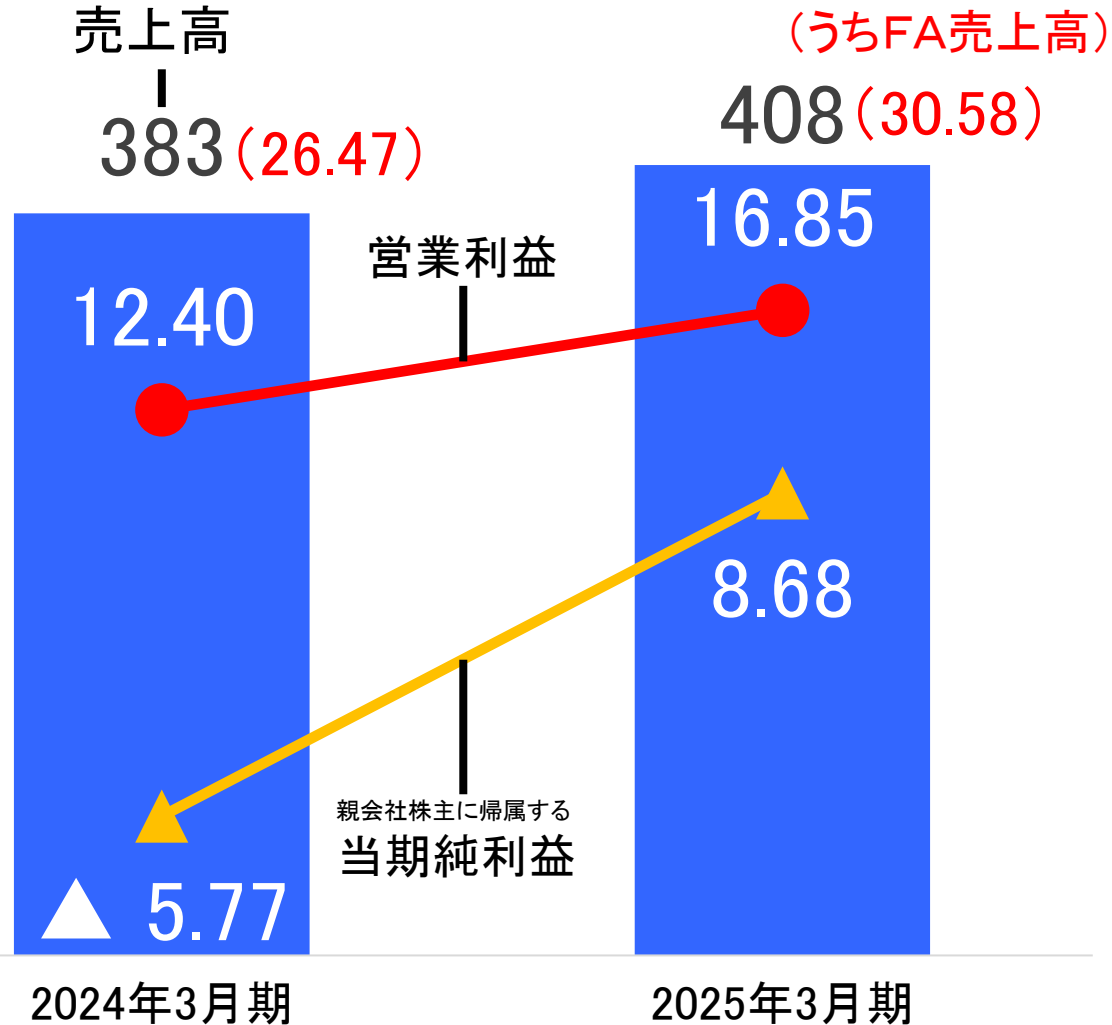
	2024年3月期		2025年3月期		前期差	前期比
売上高	38,344		40,822		2,477	106.5%
営業利益	3.2%	1,240	4.1%	1,685	444	135.9%
経常利益	3.7%	1,421	4.0%	1,613	191	113.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益(純損失)	-	▲ 577	2.1%	868	1,445	-

【為替レート(実績)】 1人民元=21.03円／1USドル=151.44円



売上高と利益

(単位: 億円)



【前期比較】

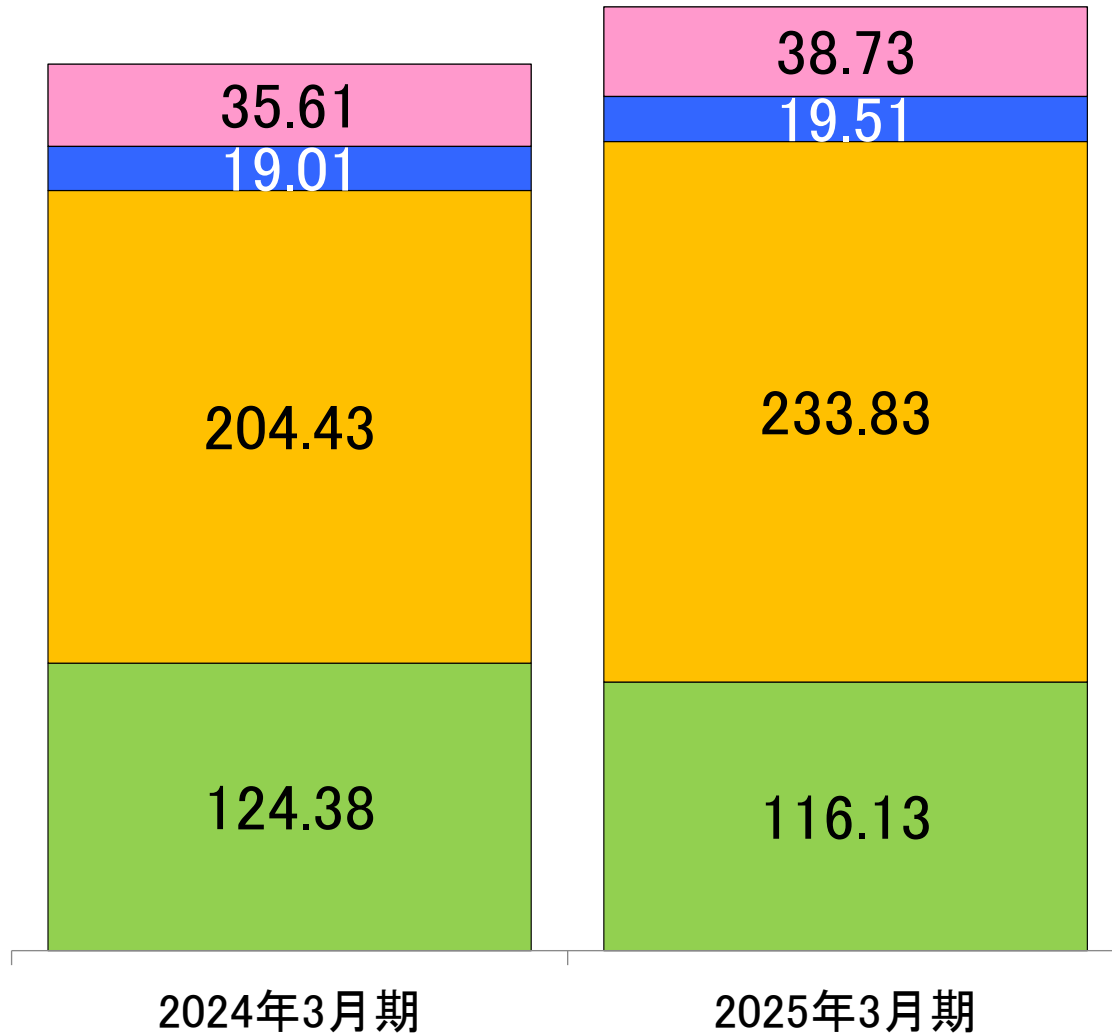
売上高	24	億	77	百万円	増収
営業利益	4	億	44	百万円	増益
純利益	14	億	45	百万円	増益

※親会社株主に帰属する当期純利益



地域別売上高

(単位: 億円)



中国では自動車関連が復調気配
欧米他も好調に推移

欧米他 欧州他が好調に推移
米州は堅調

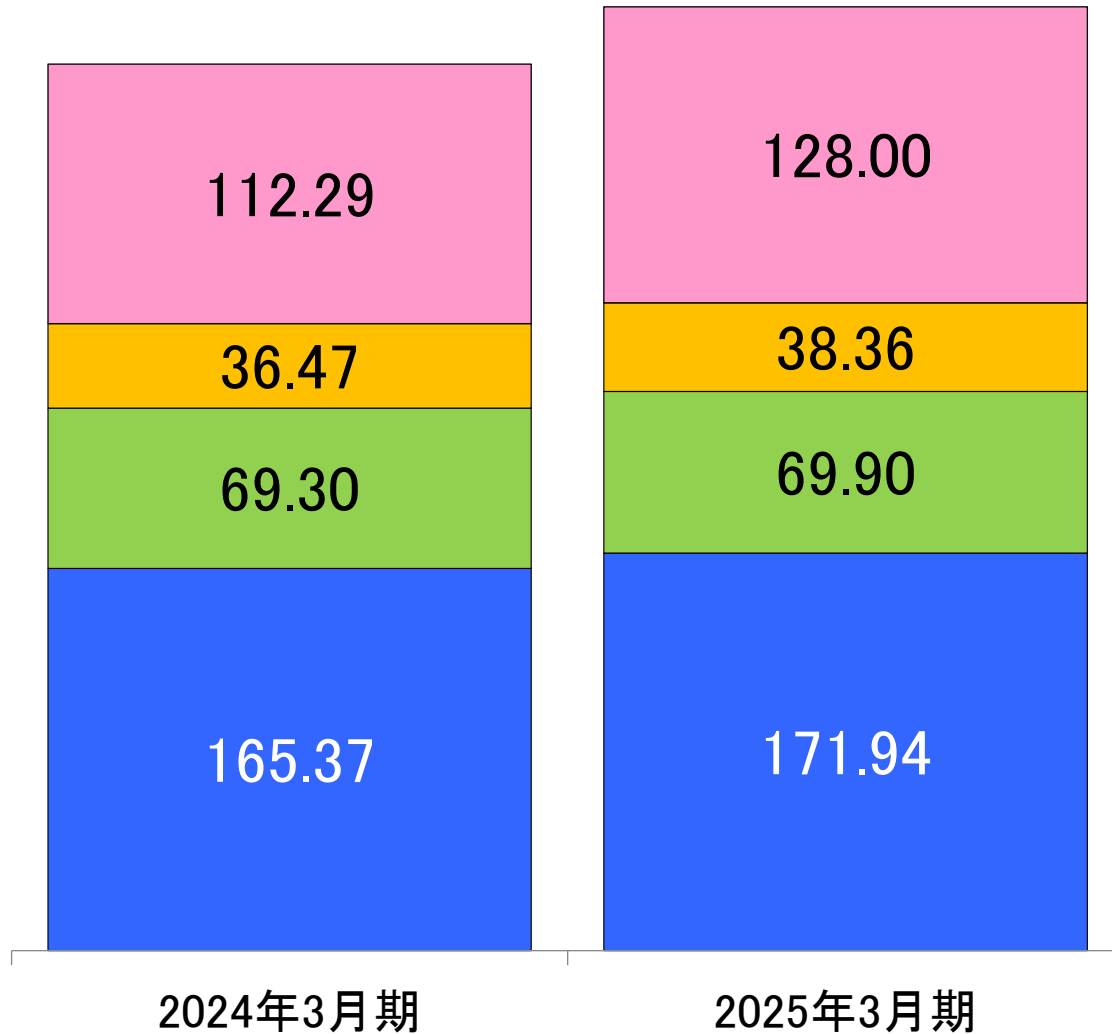
東南アジア インド、ベトナム、マレーシアが
好調に推移

中国 自動車関連が復調気配

日本 3Qに続き、医療関連のみ堅調

業種別売上高

(単位: 億円)



自動車関連は中国での増収が影響大
その他は食品関連・医療関連が堅調

その他 食品関連及び医療関連が
堅調

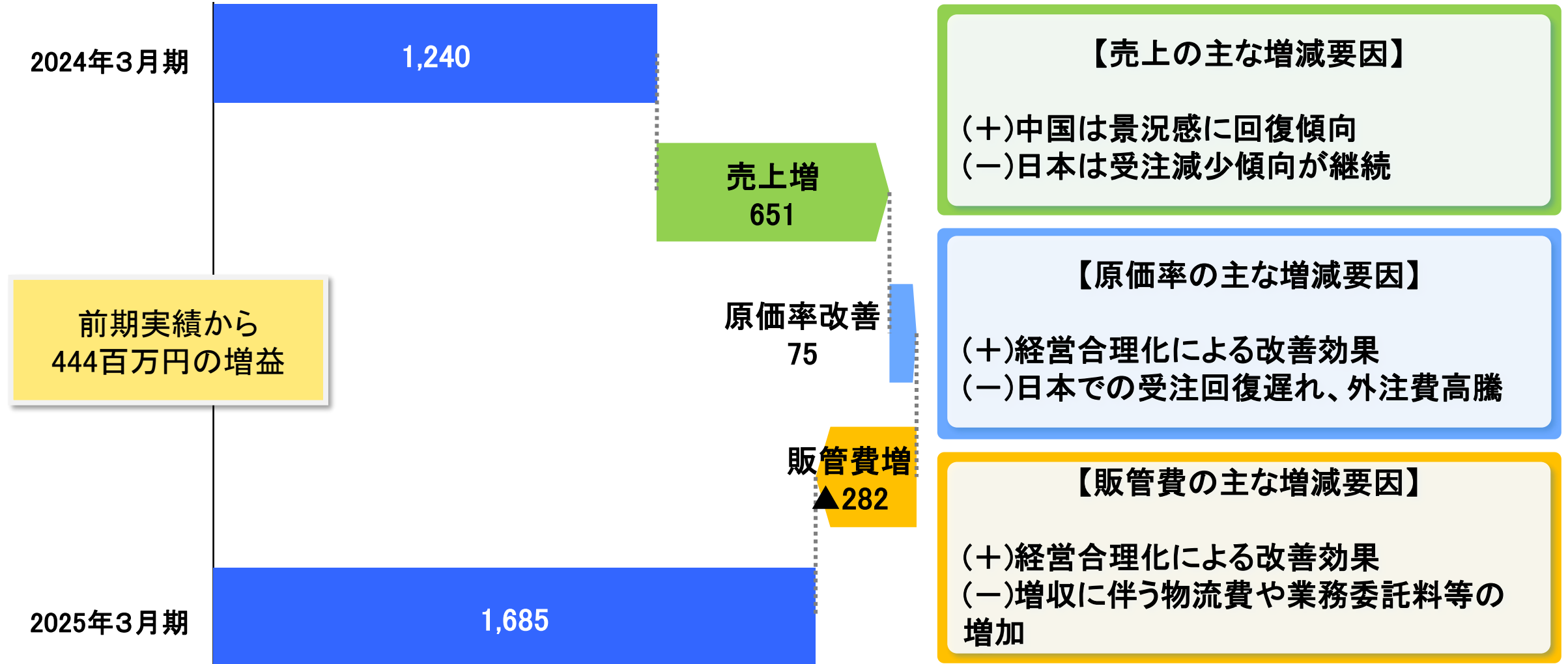
家電・
精密機器 市場が低迷

電子部品・
半導体 スマホ向け市場の停滞
足下はやや復調気配

自動車 日本は停滞継続だが
中国では復調気配

営業利益増減

(単位:百万円)



貸借対照表サマリー

(単位:百万円)

	2024年3月期末	2025年3月期末	比較増減
総資産	29,649	32,970	3,320
総負債	10,899	10,931	32
うち有利子負債	3,721	3,101	▲ 461
純資産	18,750	22,038	3,287
ネット資金	2,310	3,393	1,083
自己資本比率	63.1%	66.7%	3.6pt
株主資本利益率(ROE)	—	5.4%	—
投下資本利益率(ROIC)	3.9%	6.0%	2.1pt
設備投資額(無形固定資産含む)	915	1,058	142
減価償却費(無形固定資産含む)	1,166	1,177	11



キャッシュ・フローサマリー

(単位:百万円)

	2024年3月期	2025年3月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,276	2,271
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 680	▲ 2,415
フリーキャッシュ・フロー	596	▲ 143
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 2	181
現金及び現金同等物の増減額(換算差額含む)	791	446
現金及び現金同等物の期末残高	6,003	6,450



2026年3月期 通期連結業績及び配当の予想

(単位:百万円)

	2025年3月期 (実績)		2026年3月期 連結累計期間		
			業績予想	前期差	前期比
売上高	40,822		39,880	▲ 942	97.7%
営業利益	4.1%	1,685	2.9% 1,150	▲ 535	68.2%
経常利益	4.0%	1,613	2.8% 1,130	▲ 483	70.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2.1%	868	0.5% 180	▲ 688	20.7%
株主資本利益率(ROE)	5.4%		1.1%	▲ 4.3pt	
投下資本利益率(ROIC)	6.0%		4.0%	▲ 2.0pt	

2026年3月期
配当予想

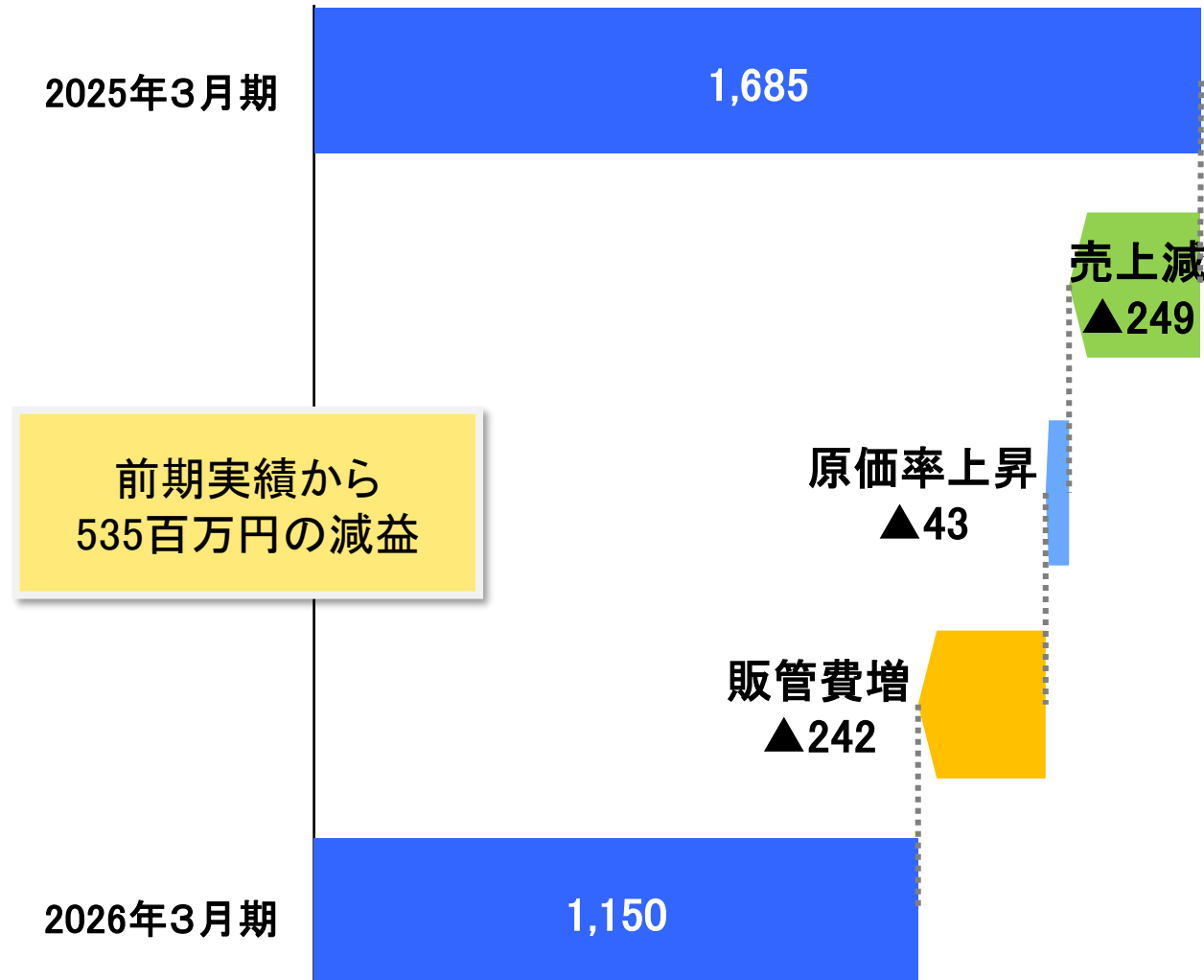
18円12銭(予定) = 中間 9円06銭 + 期末 9円06銭

【為替レート】 1人民元=19円50銭／1USD=142円00銭 【設備投資】 設備投資額:14億円 減価償却費:11億円



営業利益増減(2026年3月期の業績予想)

(単位:百万円)



【売上の主な増減要因】

- (+)海外は景況回復基調
- (-)日本は回復遅れ継続、中国は現地通貨ベースは増収予測だが邦貨換算で減収、米州の通商政策の影響による景気下振れ

【原価率の主な増減要因】

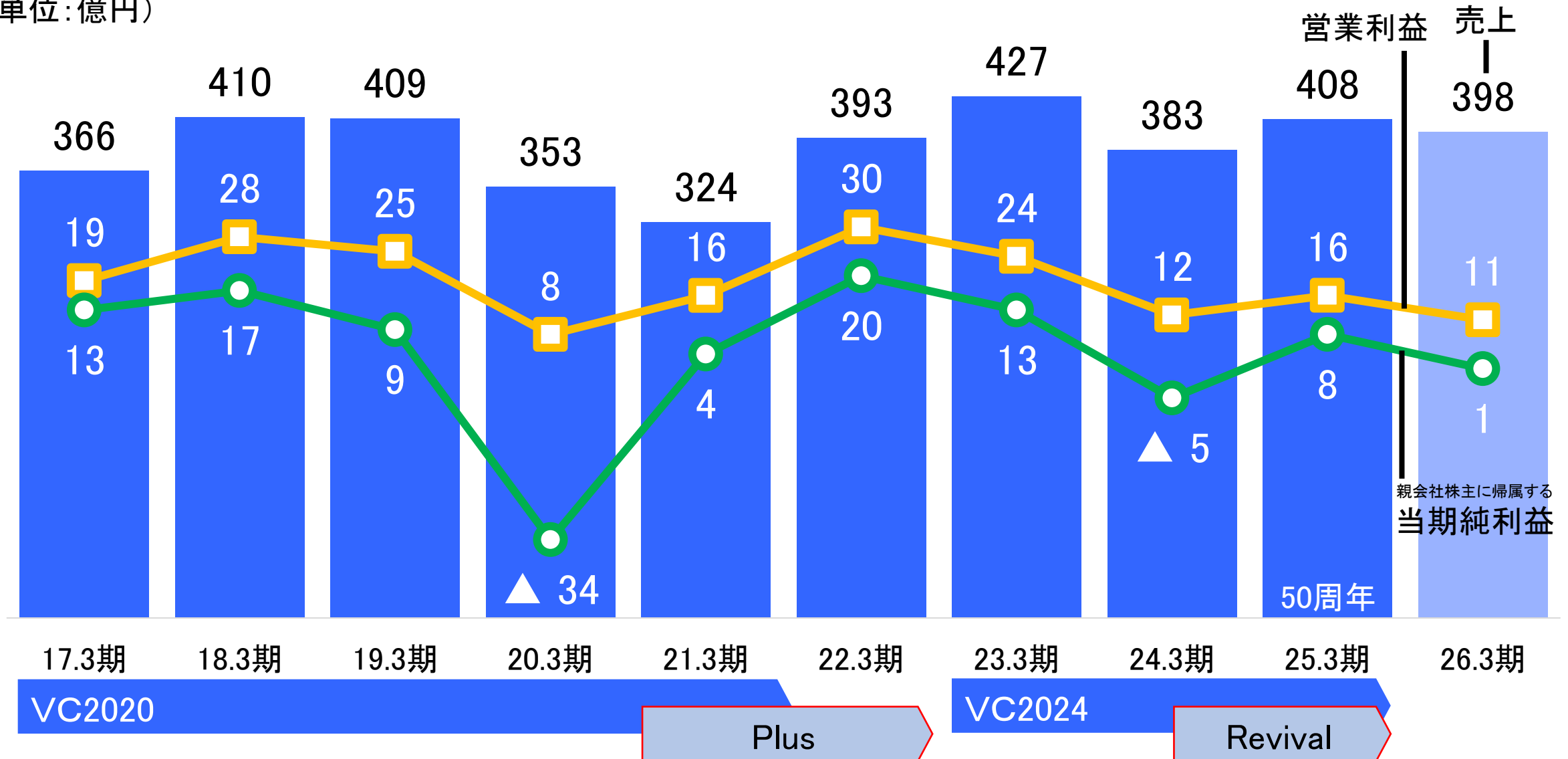
- (+)日本で価格改定
- (-)日本は受注回復遅れ、外注費高騰
中国は価格競争継続による原価率上昇

【販管費の主な増減要因】

- (+)中国は効率化による人件費の抑制
- (-)日本は営業活動量増に伴う旅費交通費増、営業人員増によるコスト先行、業務委託料の増加

経営数値の推移

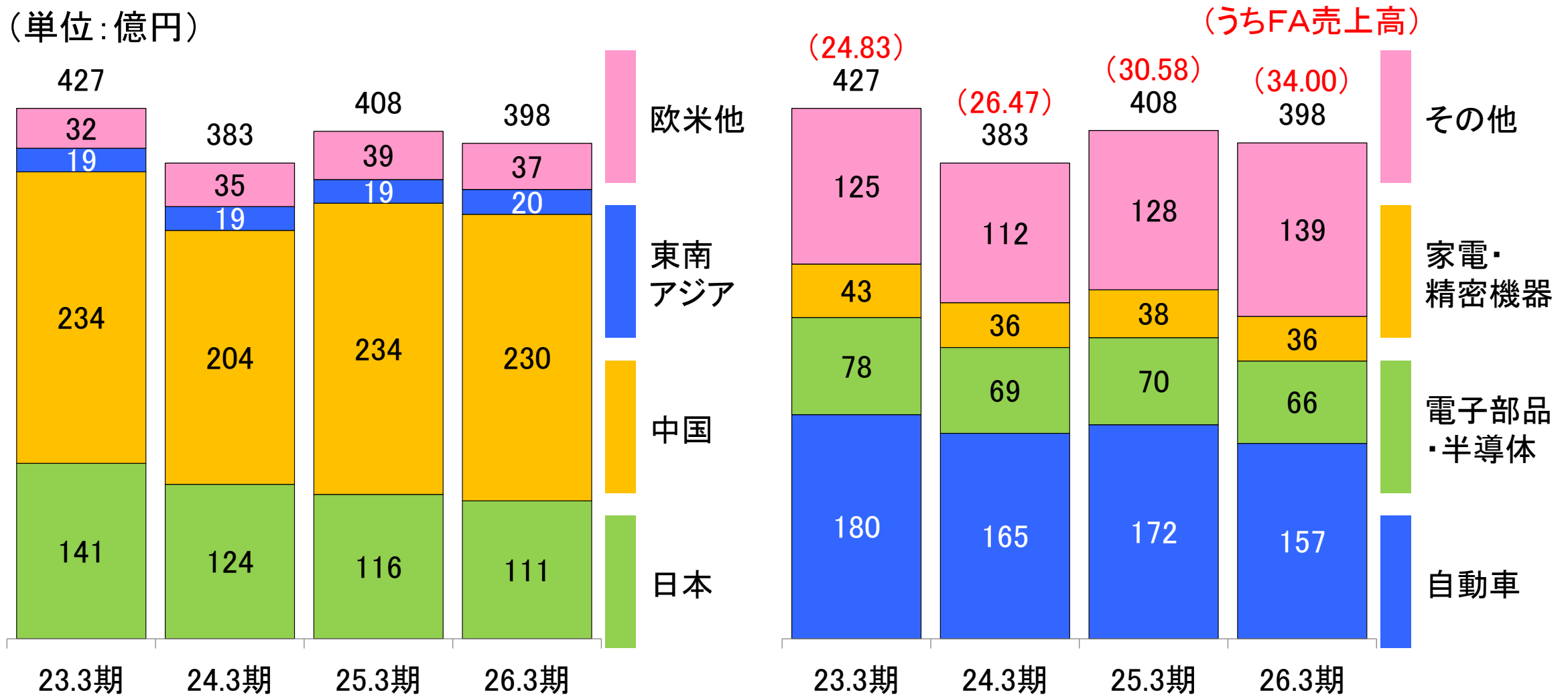
(単位: 億円)



地域別・業種別売上(FA含む)の推移

日本は営業人員不足による受注低迷継続、海外は景況回復基調も為替影響もあり連結では減収予測

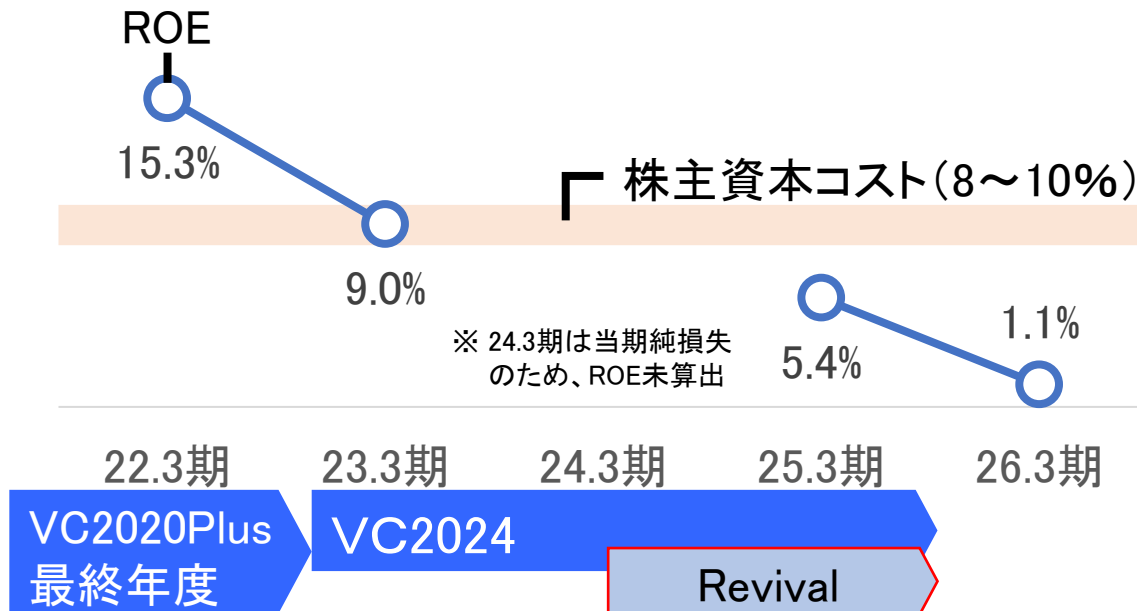
(単位: 億円)



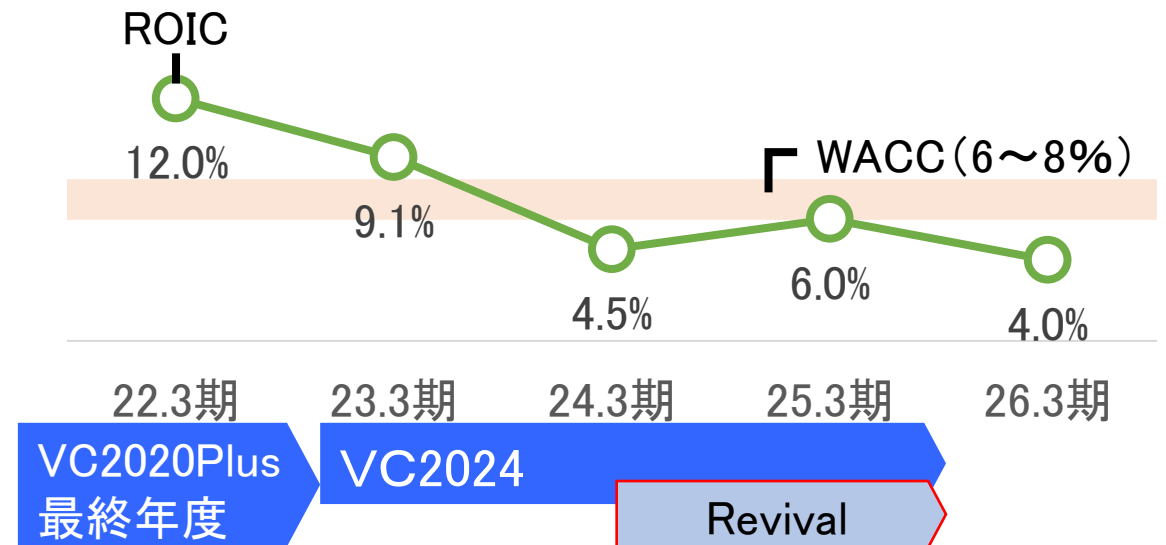
資本コストや株価を意識した経営(現状分析)

ROE、ROICが目標を下回り、資本収益性と株式市場での評価の両面で改善が必要

- 直近PBR(株価純資産倍率)推移は0.6倍前後と1倍割れが続いている
- ROE(株主資本利益率)は株主資本コストを、ROIC(投下資本利益率)はWACC(加重平均資本コスト)を共に割り込む数値推移
- 資本収益性と、株式市場での評価の両面において、向上に向けた取組みが必要
- 営業利益・資産回転率向上によるROE・ROICの改善と、株式市場に対する成長期待の浸透が課題
- ※ 当社では、株主資本コスト及びWACCは、CAPMに基づき自社にて算定後、外部専門家による助言により確定



【計算式】ROE＝当期純利益÷株主資本の期首・期末平均

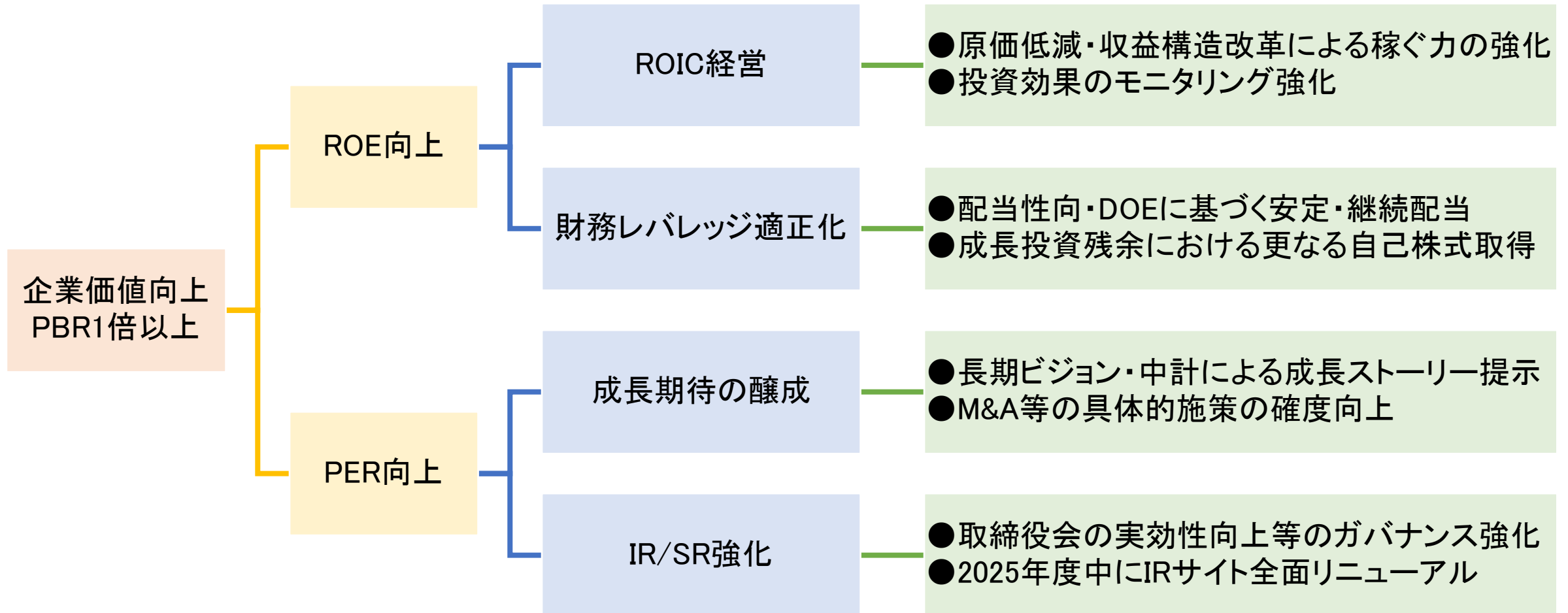


【計算式】ROIC＝NOPAT(税引き後営業利益)÷(有利子負債＋株主資本)の期首・期末平均



資本コストや株価を意識した経営(取組み)

継続してROIC経営に取り組み、企業価値の向上を図る



キャピタルアロケーションの考え方

B/Sやキャッシュフロー配分の最適化により資本収益性・企業価値の向上を図る

キャピタルアロケーションの基本方針

基本方針: 適正な「キャピタルアロケーション」を通じて中長期的な企業価値の最大化を図る

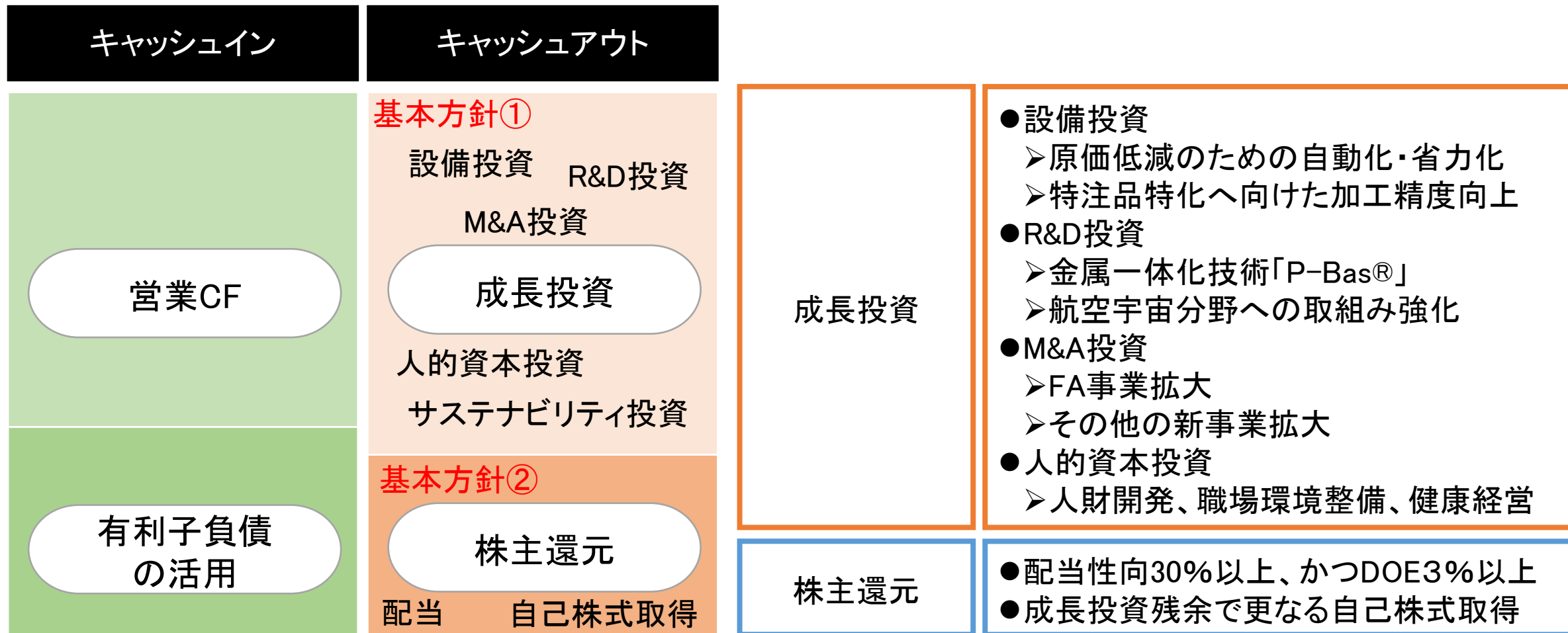
- ① 企業価値向上に資する設備投資、M&A投資、研究開発投資、人的資本投資、サステナビリティ投資への資金充当を最優先とする
- ② 「株主還元方針」に則り、安定的・継続的な配当を実施する
必要投資・利益分配後に残った余剰資金については、機動的に自己株式の取得等を通じて株主へ還元する
- ③ ①及び②の原資として、事業価値増大により、継続的な営業キャッシュフロー創出を図るほか、必要に応じて、有利子負債等の活用により資金調達を行う
- ④ 資金調達・株主還元に当っては、適正な手許流動性を確保するとともに、最適資本構成と財務の健全性の維持を図る

(参考)株主還元方針

- ① 配当は、安定的・継続的かつ連結業績への連動性を意識した利益配分とすることを基本に、「連結配当性向30%以上、かつ株主資本配当率(DOE)3%以上」を指標として、財政状態や資金需要等を総合的に勘案した上で決定する
- ② 自己株式取得は、財政状態や株価等の市場環境の動向を踏まえ、必要に応じて機動的に実施する

キャピタルアロケーションのイメージ

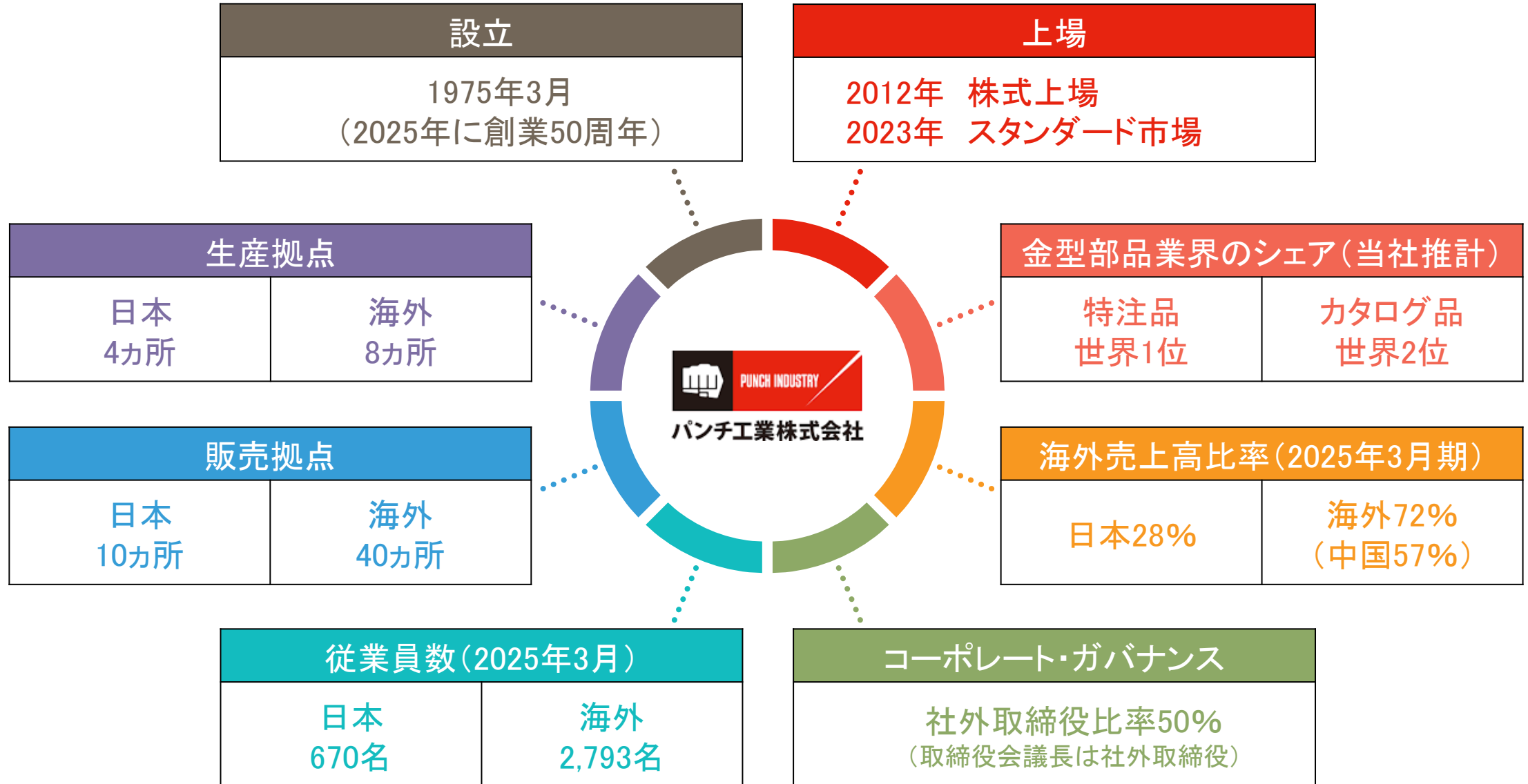
財務基盤の健全性を確保し、成長投資を最優先に株主還元へも注力



参考資料



ひと目でわかるパンチグループ



マネジメント体制

代表取締役社長プロフィール

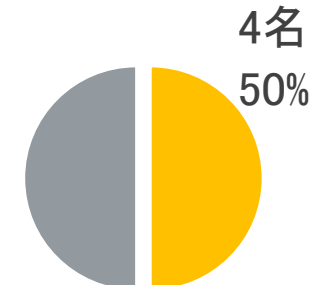
氏名及び生年月日 職歴

	森久保 哲司 (1977年1月22日)	2003年5月	当社入社
		2005年2月	盤起工業(大連)有限公司
		2012年11月	バリュー・クリエーション推進室長
		2013年4月	経営企画室長
		2015年4月	PUNCH INDUSTRY MALAYSIA SDN. BHD.
		2016年5月	執行役員
		2018年6月	取締役 上席執行役員 経営戦略統括
		2019年4月	最高戦略責任者 グループ事業統括
		2019年6月	代表取締役(現任) 副社長執行役員
		2019年11月	社長執行役員 最高経営責任者 グループ経営統括(現任)

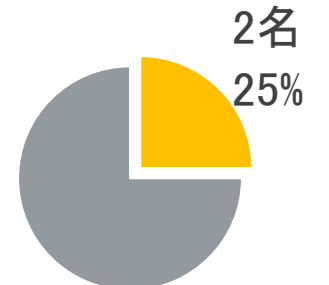
取締役体制

取締役	代表取締役社長執行役員 最高経営責任者(CEO)	森久保 哲司
	取締役上席執行役員 最高財務責任者(CFO)	村田 隆夫
	取締役上席執行役員 最高執行責任者(COO)	高梨 晃
	社外取締役	高辻 成彦
	社外取締役 取締役会議長	大里 真理子
取締役 (監査等委員)	取締役(監査等委員)	河野 稔
	社外取締役(監査等委員)	鈴木 智雄
	社外取締役(監査等委員)	田畑 千絵

社外取締役比率



女性取締役比率



パンチグループ沿革

'70

1975

- ・創業、プリント基板用穴あけピン製造

'80

1982

- ・プラスチック金型部品に進出
(ハイスエジクタピンの量産化に成功)

1983

- ・北上工場設置、金型部品の全国販売を開始

1989

- ・宮古パンチ工業(現:宮古工場)設立

'90

1990

- ・中国大連に製造拠点設立

'00

2001

- ・中国国内に販売拠点設置

'10

2010

- ・インドに販売拠点設立

2013

- ・パンサー社(現:マレーシアパンチ)をグループ会社化
- ・中期経営計画
「バリュークリエーション15」

2014

- ・東京証券取引所市場第一部銘柄に指定
(2012年東証二部上場)

2015

- ・ベトナムに製造拠点設立
- ・創業40周年

2016

- ・ベトナム工場、本稼働開始
- ・米国イリノイ州に販売拠点設立
- ・中期経営計画
「バリュークリエーション2020」

2018

- ・中国大連の製造拠点増設

2019

- ・ベトナム工場 第2フェーズ開始

'20

2020

- ・中期経営計画
「バリュークリエーション2020Plus」
- ・経営革新プロジェクト開始

2022

- ・中期経営計画
「バリュークリエーション2024」スタート
- ・株式会社ASCeをグループ会社化

2023

- ・中期経営計画
「バリュークリエーション2024 Revival」
- ・東京証券取引所スタンダード市場移行

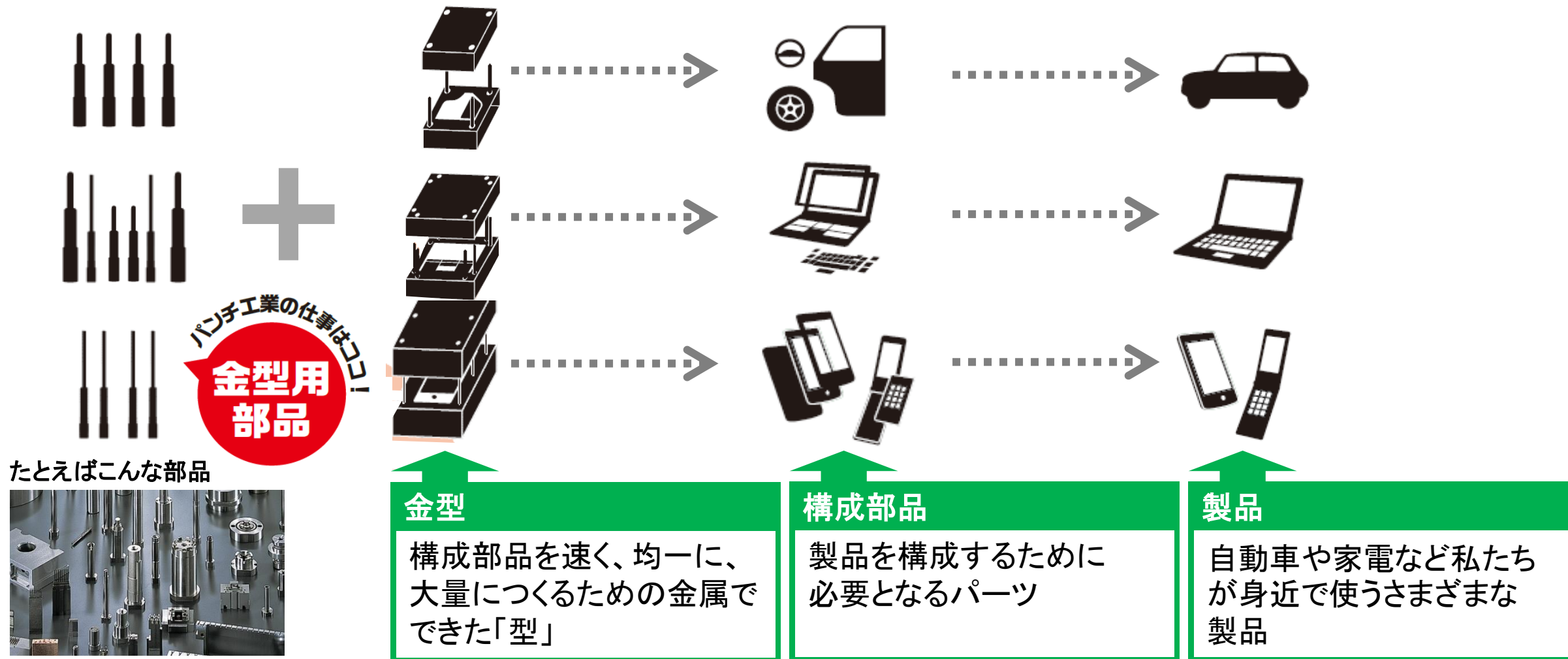
2024

- ・ミスミグループとの資本業務提携契約を締結



事業内容

金型を構成するために、なくてはならない多種多様な精密金型部品の製造・販売
皆様の豊かな生活を支える「縁の下の力持ち」



パンチグループの主要製品

射出成型金型等のプラスチック金型部品とプレス加工金型等のプレス金型部品
ものづくりの上流から下流までお取引

プラスチック金型部品

プラスチック金型は、スマートフォンやデジタルカメラの外装など、多くのプラスチック製品の製造に用いられています。加熱溶融したプラスチック樹脂を、射出成形機に実装された金型に注入し、冷却、固化することにより製品が作られます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

エジェクタピン

射出成形された成形品を金型そのものから離し、突き出すための部品（押し出しピン）です。



主要な製品

コアピン

製品部を成形するのに使用し、コアピンの形が転写されます。製品部の貫通させた部分を成形したり、製品部に彫刻をします。

プレス金型部品

プレス機（上下運動する機械）に金型を装着し、上下に分かれた金型の間に材料となる金属の鋼板を入れ、プレス機を稼働することにより、金型で型どられた製品ができます。パンチグループでは、この金型を構成する部品を製造・販売しています。



主要な製品

パンチ

プレス金型に組込まれる代表的な部品で、金属板に穴をあけたり、形状を転写するための部品です。当社の社名はこのパンチに由来しています。



主要な製品

ホルダーガイドポスト関連

上型と下型の関係を正しく保つために使用する部品です。

パンチグループの強みとネットワーク

汎用性の高いカタログ品を豊富にラインアップ & カスタムニーズにも対応する特注品
世界の「ものづくり」を支える

パンチグループの強み

お客様に高い満足度を提供

日本・中国

特注金型部品シェア1位 ※当社推計

カタログ品

汎用性の高い標準製品を………
豊富にラインアップ



タイムリーで
的確な
ソリューション

一気通貫の
生産体制
2,000台の設備で
幅広い対応力

お客様密着型の
営業体制
きめ細かな
対応・提案力

特注品

カスタムニーズにも
柔軟に対応

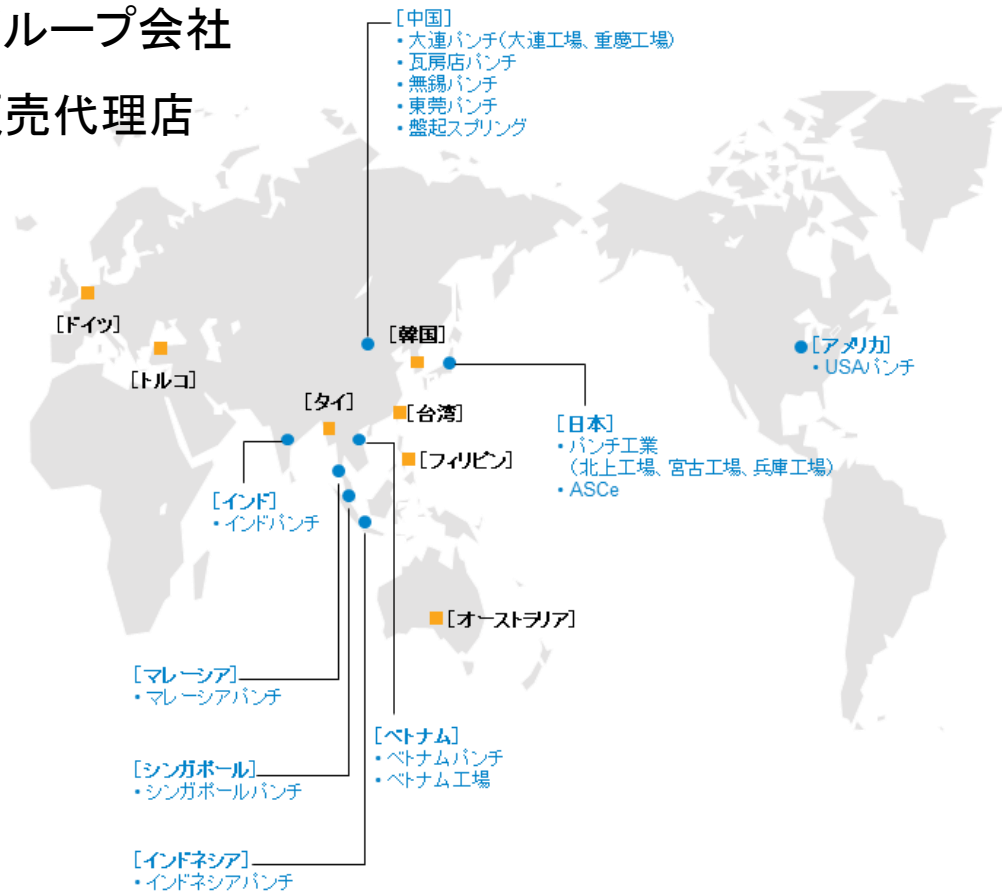


高い技術力
創業以来培った
ノウハウと
たゆまぬ研究開発

パンチグループのネットワーク

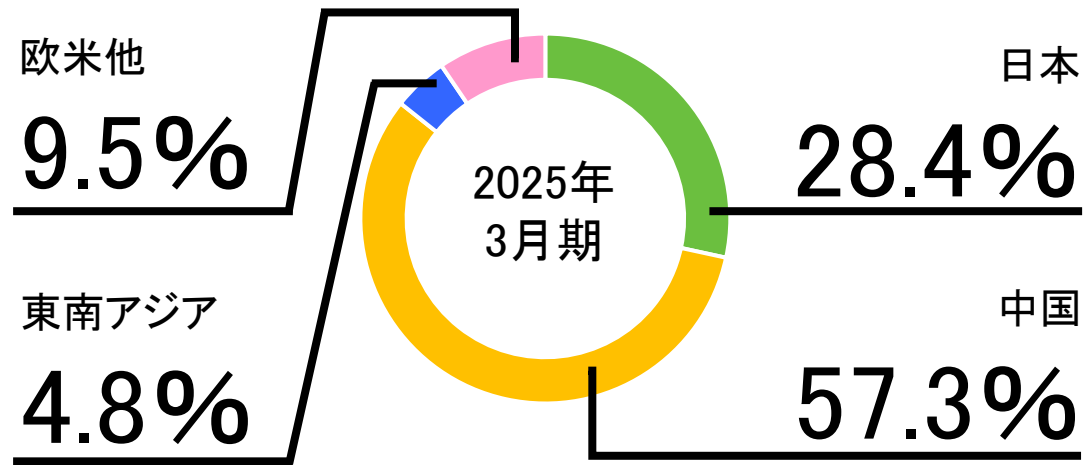
● グループ会社

■ 販売代理店

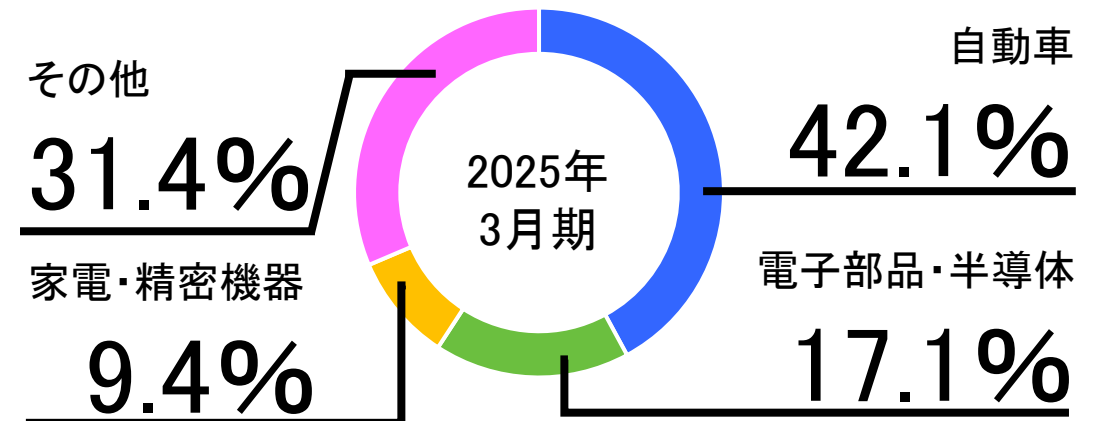


地域別・業種別売上高構成比

地域別売上高構成比



業種別売上高構成比



業種別の主要顧客

日本での主な競合先: 大手総合機械商社、地場金型加工メーカーなど
中国での主な競合先: 中華系機械商社、中華系機械メーカーなど



主要顧客

自動車メーカー
及びTier1,2
金型メーカー



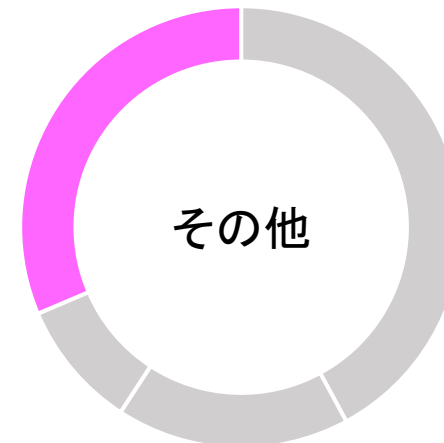
主要顧客

電子部品メーカー
半導体装置メーカー
金型メーカー



主要顧客

家電メーカー
金型メーカー



主要顧客

文具メーカー
玩具メーカー
医療メーカー
飲料容器メーカー
グローバル商社
金型メーカー

エンドユーザーのイメージ（例：自動車関連）

大多数のエンドユーザーは金型メーカー

自動車メーカー



ボディ・外装・シート・
コネクター・等々のメーカー



金型 メーカー

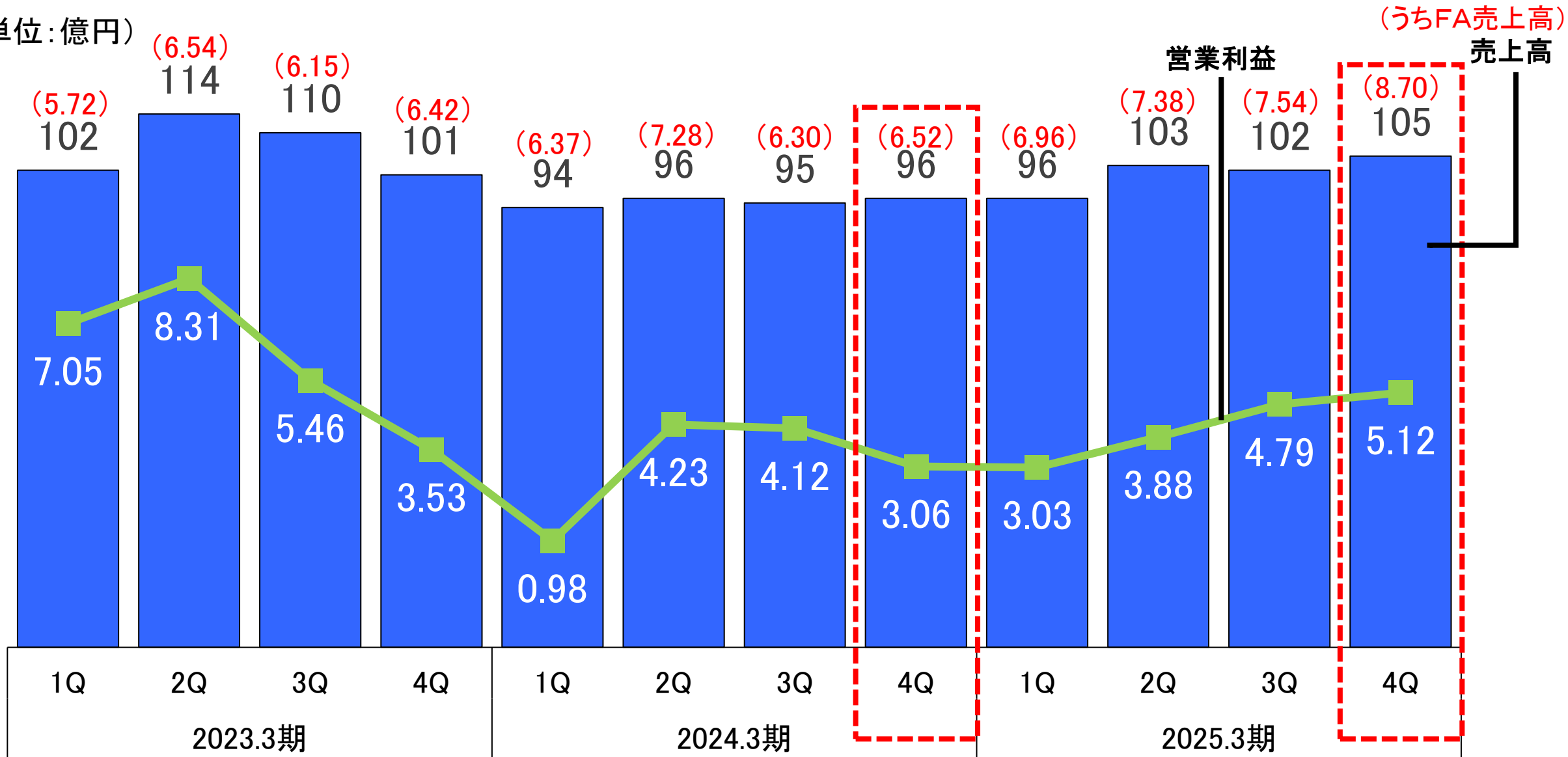


パンチグループ



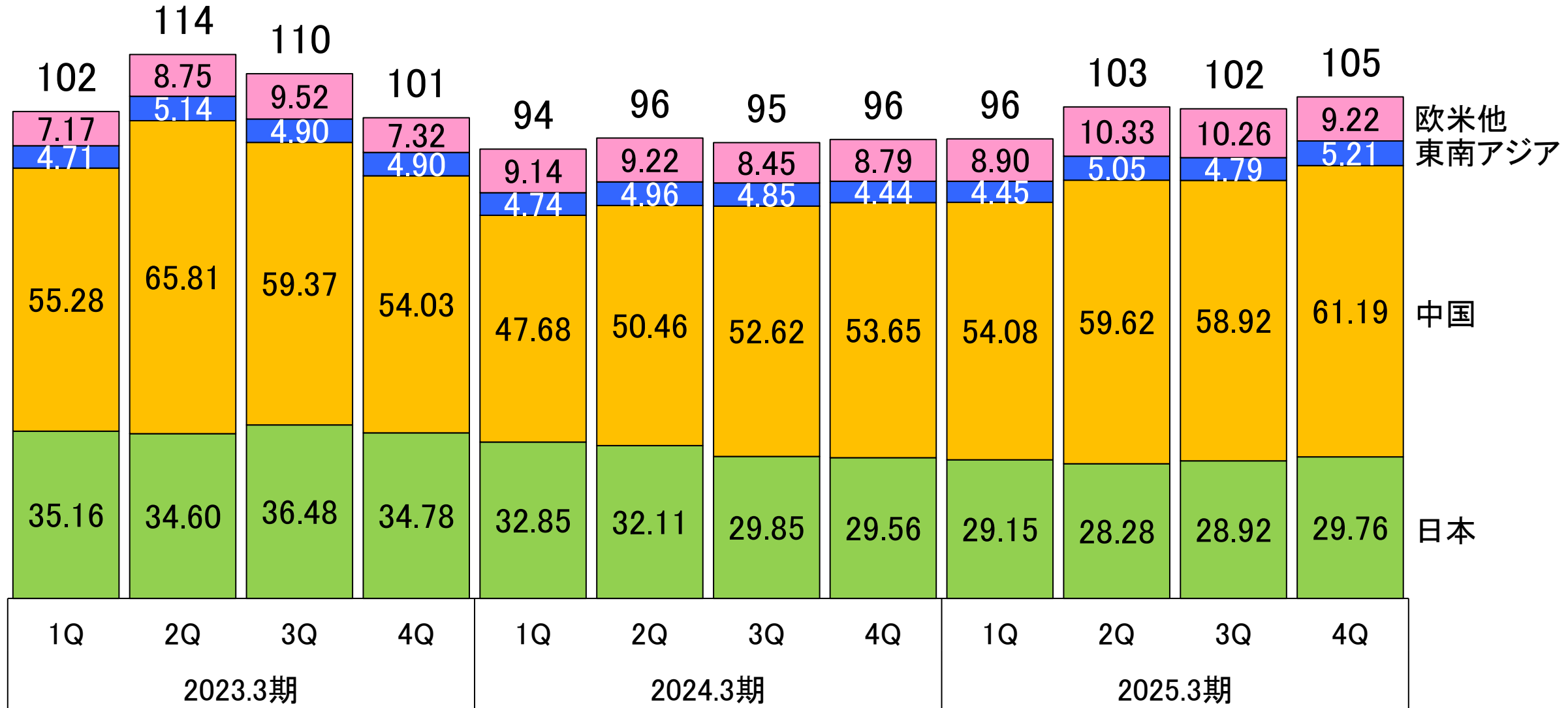
売上高と営業利益の推移

(単位: 億円)



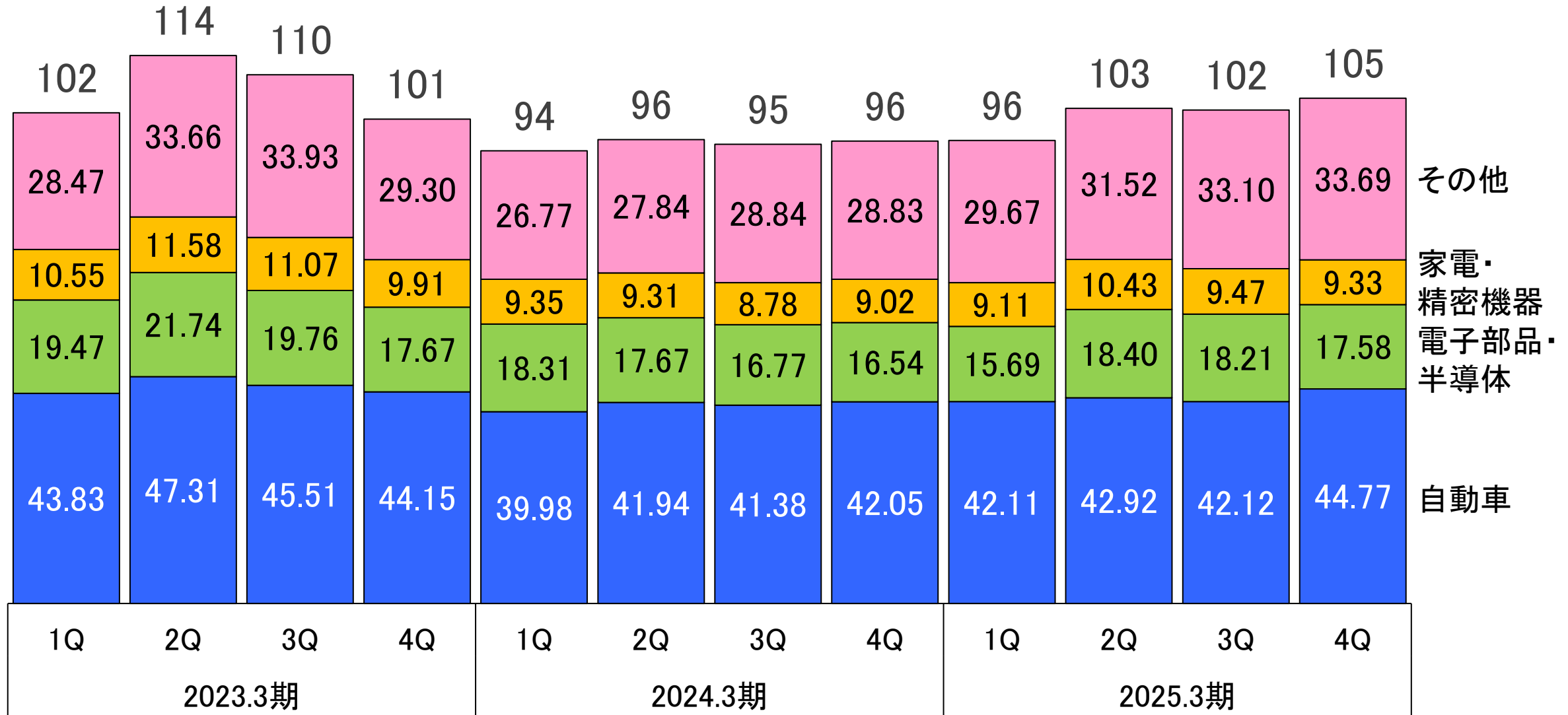
地域別売上高

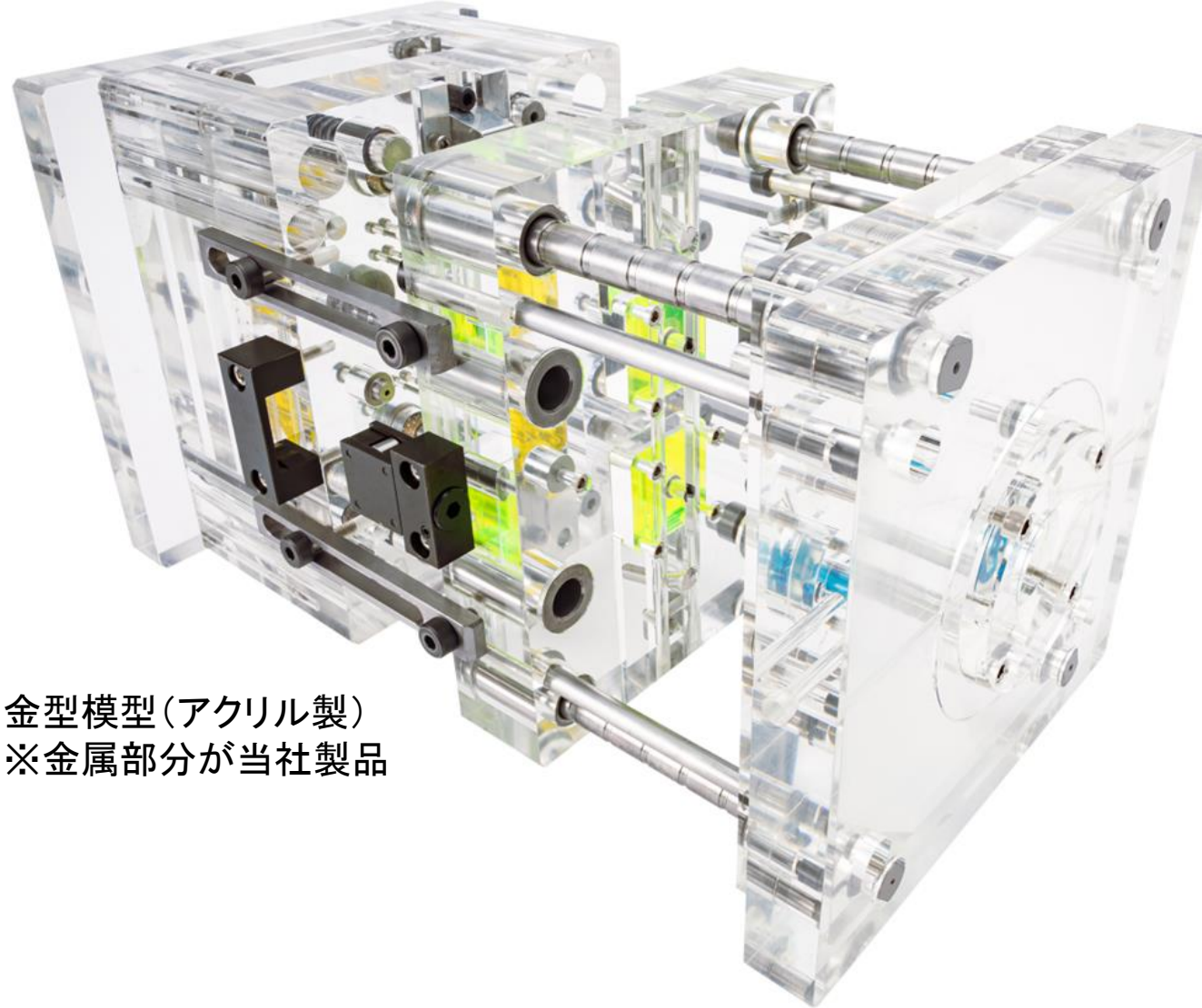
(単位: 億円)



業種別売上高

(単位: 億円)





金型模型(アクリル製)
※金属部分が当社製品

【IRに関するお問い合わせ先】 パンチ工業株式会社 コーポレート・コミュニケーション室 広報IR課 電話:03-5753-3130 e-mail:info-corp@punch.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。